

令和6年度 大田区立矢口小学校 自己評価 報告書

○ 本校の概要

- ・学校規模(児童数510名、学級数17学級、教職員数54名)
- ・大田区教育委員会指定 教科「おたの未来づくり」研究実践校(令和5年度研究発表校)
- ・令和6年9月よりコミュニティスクール指定校
- ・地域との協働で取り組む事業が多くあり、学校の伝統的な合い言葉として「矢口魂」が定着している。

令和7年1月31日

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄			
								評価	人数	コメント	
生予個 き測別 る困目 力難標 をな1 育未成 来社来 会を ます 創造 的に	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	児童アンケートで「まちのことについて、いろいろ考えることができた」と回答する割合	4:80%以上	4	【成果】 地域学習が定着し、より良い町にすることを学習課題にすることで、地域の方々と共に児童を育てる環境を今後も継続・発展させる。 【課題】 科学教育として、児童自ら実験検証できるカリキュラム開発が必要になってくるだろう。(回答者数:)	A	7	・各学年の児童の皆さんが、それぞれ一生懸命地域や商店街のことを考えてくれていました。 ・各店舗からも活気が出て参加して良かったという声も聞きました。 ・タブレットを上手に活用していて、発表時も見やすくまとめられていました。 ・①～③に関しては、教員も児童も、その取組を高く評価しているが、④に関しては、指導者である教員の評価が低く、学校として取組内容を含め検討することの必要性を感じる。 ・非常によい体験ができています。 ・タブレットを使いこなしている子が多いと感じる。
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケートで「矢口農園や商店街でいろいろなことを学べた」と回答する割合	3:70%以上	4	【成果】 グリーンボランティアや商店街各店舗からの多大な協力を得て、児童に他者と協働する意識が自然に身に付いている。 【課題】 児童が学習したことを自らデジタルアーカイブし、生涯の「ふりかえり財産」化するシステム構築が必要である。(回答者数:486)	B	1	
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケートで「タブレットを使ってたくさん学習することができた」と回答する割合	2:60%以上	4	【成果】 本校はタブレットを活用して自分の意見を発信するという新おた教育ビジョンの評価項目を達成できている。 【課題】 ネット上で生じる問題について対応力を高めるための、「デジタルシチズンシップ教育」の導入が必要である。(回答者数:486)	C		
		④俳句教育を通して、STEAM教育のうちのART分野に取り組み、言語能力向上に努める。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2	2年生以上の児童アンケートで「俳句を考えるのが楽しかった」と回答する割合	1:60%以下	4	【成果・課題】 中学年までは俳句への興味が継続している。高学年のマンネリ化現象が起きているため、コンクール応募等の学習刺激が必要である。(回答者数:486)	D		
お世個 お界別 たと目 目標 な2 うが 人国 を際 育都 成市 し ます	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	3年生以上の児童アンケートで、「私は英語の力が高まった」と回答する割合	4:80%以上	3	【成果】 極力、オールイングリッシュで授業をするようにしたこと、児童の英語言語感覚は伸びている。 【課題】 英語に苦手感のある児童にとってはオールイングリッシュの授業は混乱を生じかねないため、指導の工夫が必要である。(回答者数:322)	A	8	・教員の評価と児童の評価は若干異なる点があるが、個別目標1と比べて評価が少し低い。 ・児童に英語に対する苦手意識があるかもしれないが、外国語に関しては成果の向上を認めるものの、いま一層の改善努力を期待したい。 ・早くから英語を習った方がよい。
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	児童アンケートで「英語の学習をとおして、外国のことに興味をもった」と回答する割合	3:70%以上	3	【成果】 教員は多様な指導を通して相互尊重の心を育んでいる自覚がある。 【課題】 児童自身が国際的な話題に関心をもてるよう、ALTや地域人材を活用した国際理解教育のカリキュラムマネジメントが必要である。(回答者数:486)	B		
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	5、6年生児童アンケートで「おたの未来づくりの学習を通して、地域や社会のことを考えることができた」と回答する割合	2:60%以上	4	【成果】 教科「おたの未来づくり」の先行研究校として、児童に社会との接点を数多く経験させてきたことで、他者意識が育った。 【課題】 10年後を目指した長期的な学習カリキュラムとできるかが今後の課題である。(回答者数:152)	C		
						1:60%以下			D		
た一個 め人別 のひ目 基と標 礎り3 がな個 性力と 能力を 育成し を發揮 する	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートで「子どもたちはよく挨拶をしている」と回答する割合	4:80%以上	4	【成果】 教員の道徳授業研修も行い、大人も子どもも道徳について学ぶ校内環境にある。 「小さな親運動本部」との連携を生み出し、学校の取組を評価され、全児童が表彰された。 【課題】 今後も継続する。(回答者数:376)	A	8	・徳・知・体の調和のとれた教育が推進されているものと評価できる。但し、保幼小中、学校種等間の接続連携において若干の課題があるのではと感じられる。 ・保幼小の連携は難しいのではないかと思う。
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべての子どもに確かな学力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートで「先生は分かりやすい授業をしている」と回答する割合	3:70%以上	4	【成果】 今年度、「ステップルーム」を創設し、児童個々の課題により密接に応じられるよう体制を整えたことをはじめ、支援員体制を拡充して指導を行っている。 【課題】 「自学ノート」指導に加えて、タブレットドリルを活用した自由進度学習を家庭学習に取り入れることを検討する。(回答者数:376)	B		
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートで「子どもたちは早寝早起き朝ごはんを心がけている」と回答する割合	2:60%以上	4	【成果】 各家庭の協力が良く、高い割合で「早寝早起き朝ごはん」の習慣が身に付いている。 【課題】 大田区の健康施策とも連携しながら、今後の健康教育を考えていく。(回答者数:376)	C		
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	教員アンケートの結果をもって評価する	1:60%以下	3	【成果】 中学2年生の職場体験の受け入れや小学6年生の部活体験、地域幼稚園の生活科イベントへの招待などは進展がある。 【課題】 教科担任制に近い指導形態が進み、保幼小中特支校と連携する時間的余裕が少ない。オンラインの可能性をさぐることが課題となる。(回答者数:22)	D		

学 校 別 力 目 ・ 標 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者アンケートで「学校は新しい時代の教育に取り組もうとしている」と回答する割合	4:80%以上	4	【成果】児童の主体性を生かす授業を公開してきたことにより、保護者の理解も深まったと認識している。 【課題】児童の表現力(プレゼン力、意見発信力、文章力等)を、1年生から段階的(系統的)に伸ばす必要がある。 (回答者数:376)	A	8	・学校公開時にいろいろなクラスのプレゼンを見せていただきました。各クラス様々でしたが、どのクラスもハッキリとした口調で、自信たっぷりにプレゼンしていました。日頃の授業の成果かと感じました。 ・商店街との連携で、各店舗とのやり取りや連絡が大変そうで先生方の負担になっていないか心配になりました。 ・学校力・教師力の向上のため、校内研究の場を通して教師の資質向上のため、各教員が努力している姿が見え、高く評価したい。 ・教員の働き方改革の取組は難しい課題ではあるが、教員一人一人が教員として生きがいを見い出せるよう、いま一層の努力ができるとういのだが…。 ・地域が非常によい町であると思う。 ・教員の積極性を求める。	
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートで「学校は地域と連携した教育活動を進めている」と回答する割合	3:70%以上	4	【成果】教科「おおたの未来づくり」の取組に象徴される商店街との連携が成果を上げ、商店街が取材するイベントに過去最高の参加者数があった。 【課題】様々な関係組織が持続可能になるよう、コミュニティースクールとして熟識していくことが今後の課題となる。 (回答者数:376)	B			
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。	4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3	教員の平均超過勤務時間をデータで取り、 4、45時間以下 3、55時間以下 2、65時間以下 1、65時間以上	2:60%以上	4	【成果】会議の精選や学校生活時程の変更、教員の意識改革等により、12月時点で平均超過勤務時間が39時間になった。 【課題】今後も油断せずに、校務改善でできることは積極的に断行し、教員が児童との信頼関係を深められるようにしていく。	C			
						1:60%以下		7	D			
た 自 個 め 分 別 の ら 目 学 し 標 び く 5 を い 支 き 援 い き ま す 生 き る	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートで「学校は一人一人のこどもを丁寧に指導している」と回答する割合	4:80%以上	4	【成果】特別支援教室との連携を丁寧にを行うことにより、その指導を教室で生かせるように努力している。 【課題】インクルーシブ教育については、常に教員の指導力向上を図るため、日常的なOJT研修が行えるようにする。(回答者数:376)	A	8	・スクールカウンセリングが充実していると思います。多くの大人の目が児童を守って下さっていると感じます。 ・インクルーシブ教育・いじめ対策・スクールカウンセラー等の活用において、適切に行われ、成果をあげているものと判断する。	
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。	4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	4	保護者アンケートで「学校はいじめの防止や早期発見に努力している」と回答する割合	3:70%以上	4	【成果】いじめアンケートに頼らず、日常的な児童観察を全教職員で行うよう心掛け、早期解決に努めた。 【課題】WEB上のトラブルへの対応力を教員も児童も保護者も高めなくてはならない。デジタルシチズンシップ教育が必要である。(回答者数:	B			
		③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	年間カウンセリング件数(児童・保護者・教員総計)で評価する。 4、1000件以上 3、800件以上 2、600件以上 1、600件以下	2:60%以上	4	【成果】相談支援体制(スクールカウンセラー・校内支援員・スクールソーシャルワーカー・教育センター・子ども家庭支援センター・児童相談センター・福祉局・警察署・民生児童委員・病院)を強固に構築した。 【課題】人が替わっても支援レベルが落	C			
						1:60%以下			D			
安 柔 個 心 軟 別 な で 目 教 創 標 育 造 6 環 境 な を 学 び 習 く 間 と 安 全 ・	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		4:80%以上		①について 【成果】矢口自然農園での体験学習は、年々充実しており、今年度は1月1日号大田区教育委員会広報誌「おおたの教育」1面トップで「お米プロジェクト学習」のことが紹介された。 【課題】収穫した米のみすり精米を請け負ってくれていた地元の精米店の機械が壊れ、精米できない事態となっている。今後のために協力者の拡大をすることが喫緊の課題である。	A	8	・地域の方と一緒に農園を育てている児童の姿を度々見えています。 ・草花に触れる事を児童がとても楽しんでいて素晴らしいと思います。 ・柔軟で創造的な学校空間・学校・地域の伝統・特色を生かした教育の推進や安全・安心な教育環境の創造のため、日々の点検等を通して成果を上げているもの判断する。	
		②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	5、6年生児童アンケートで「避難訓練が自分の身を守ることに役立っている」と回答する割合	3:70%以上	4	②について 【成果】避難訓練について、従来踏襲をせず、新課題に応じて内容改編をしている。児童が訓練に臨む態度も極めて高いレベルにある。 【課題】児童自身が町の安全について学習する「地域安全マップ」や「地域防災調べ」などのカリキュラムマネジメントをする必要がある。 (回答者数:152)	B			
						2:60%以上			C			
						1:60%以下			D			
学 地 学 校 域 校 別 を コ ・ 目 ミ 家 標 く ユ 庭 7 リ ニ ・ ま テ 地 サ イ 域 の 核 連 と 携 し ・ て 協 働 に よ る	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	地域や企業、授業協力者と連携した取組をした回数 4、12回以上(学年×2) 3、10回以上 2、8回以上 1、6回以上	4:80%以上	4	【成果】本年度9月より、コミュニティースクール化した。 【課題】学校運営協議会の開催方法や、学校運営委員の新規委嘱を検討する必要がある。	A	8	・地域・PTA・同窓会・商店街等との連携・協力により教育環境の整備はまさに矢口小の伝統であり、長年にわたって受継がれてきた。今後も地域等との連携・協力が継承されるよう期待してやまない。	
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	4	こども見守りボランティア「スマイルネット」の活動が毎日行われているため、成果指標は「4」とする。	3:70%以上	4	【成果】スマイルネットの子供見守り活動が「小さな親切運動本部」から11月に表彰された。続いて、本校児童全員も1月に表彰された。 【課題】「小さな親切運動本部」との連携を始めた。相互にウェルビーイングな連携を今後創り出す。	B			
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	学校サイト年間更新数で評価する 4、100回以上 3、80回以上 2、60回以上 1、60回以下	2:60%以上	4	【成果】学校サイトのヘビーユーザーからは多くのご意見感想を受けている。学校の取組目的への理解の声が多い。 【課題】講演会的な会合を企画しても、参加数が10名前後になってしまう。イベント的な啓発公演だと100名を超える。学校として内容と宣伝の工夫が必要である。	C			
						1:60%以下			D			

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す